

町史だより

西原のことばくその⑦

ユンジチについて

今年になって、よく「ユンジチ」という言葉を耳にします。みなさんはユンジチという言葉の意味を知っていますか？

ユンジチとは旧暦（たいいんたいようれき）（太陰太陽暦）月の満ち欠けを主とし、太陽運行をあわせて作った暦の欠点を補うために設けられた調節の月のことをいいます。今年は年が十三ヵ月、七月が「二回」です。ユンジチは十九年間に七回という割合でやってきます。

沖縄ではユンジチを特別な月と考えています。この月は、ご先祖様からこの世の出来事が見えにくくなるといわれ、その間にお墓の新築や仏具を買ひ換えるとかよいとされています。その他にも、妊娠しにくい女性でも妊娠する、夏のユンジチは豊年になるともいわれています。

地域によってユンジチの捉え方はいろいろあるようです。町内ではどのような伝承が残っているのでしょうか？存知の方は町史係までお知らせください！

兼久 青年エイサー

毎年、シチグワチ（旧盆）になると、町内では盛んにエイサーが踊られます。今年は八月六日から八日までの三日間、各地で太鼓の音色が響き渡りました。

◆◆◆ 青年会 ◆◆◆

結成十周年を迎える兼久青年会は、十三年前に五人の青年によって活動が始まりました。青年会活動にエイサーを取り入れるため、那覇市首里平良の青年会と約二年間、活動を共にしました。その後、自分たちのオリジナル曲や振り付けを完成させ、十年前のシチグワチから兼久でエイサーを披露しています。

◆◆◆ 練習と道具 ◆◆◆

今年は本番の約一ヵ月前から毎日（土日を除く）、兼久広場で午後八時から練習を行いました。

本番の前日には、公民館で縮太鼓や扇子（せんす）を二つ自分たちの手で修復しました。縮太鼓は胴部分となる紙ボール



写真①



写真②

を切り、黒スプレーで色付けし、古い紙ボールと交換します。（上写真①②）

また、太鼓を叩くバチには、ユーナ（オオハマボウ）の枝が使われ、西原の海岸から取っていました。そして、それらを自分の握りやすいように加工します。

◆◆◆ エイサー本番！ ◆◆◆

ウンケー・ナカビ・ウーウイの三日間、

字兼久を中心に道ジュネー（みちしゅねー）をしました。

※はなぐさま
花車（はなぐるま）を先頭に男性の太鼓（お太鼓）三名、縮太鼓八名、新（かすり）を着た女性六名が勇壮かつ華麗にエイサーを踊りました。エイサーに使われる曲は、①仲順流れ②久高マンジュー主③イチビ小節④テンヨー節⑤トウータンガニー節⑥唐船ド

⑦の六つです。その中でも④⑤⑥は兼久オリジナルの振り付けで踊られています。その他の特徴としては、女踊りに「兼久」と書かれた扇子を使うことです。（上写真③）



写真③

最終日、兼久公民館で準備を整えた青年たちは、午後八時半から道ジュネーを始めました。

連日、大声を出しているため、ほとんどの青年の声はかれています。しかし、いざ曲が流れると、真剣な目に変わり、一生懸命に大声を出し、力強いバチ捌き（さばき）を披露しました。



兼久青年会の太鼓



内間団地青年会

の場を終えました。

今回、計十七ヵ所でエイサーを披露し、全日程が終了したのは午前二時半でした。

兼久初代青年会長は「エイサー文化のない土地に、それを持つてきて馴染ませるのに苦労した。これからもエイサーを続け、兼久の伝統にしていきたい」と目を細めながら語っていました。

参考文献

『宜野湾市史』五 宜野湾市教育委員会

『西原町史』第四卷 西原町教育委員会

『国語大辞典』新装版

<http://nagayama.ddo.jp/~gyouji/greki.html>

<http://www.enishi.co.jp/04.html>

競いあう